

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	安芸高田市立吉田中学校	校長氏名	友繁 孝実	生徒指導主事氏名	三宅 伸之
-----	-------------	------	-------	----------	-------

取組事例名 『レッツ・クリーン吉田』**取組のねらい** 『小中連携』

生徒会活動の一貫として、児童と生徒が地域の清掃活動を通じて、仲間づくりの意識を高め、小中のつながりをさらに深める。

取組の具体的内容 『ボランティア清掃活動』

8月6日（木）の6時30分に3つの小学校にそれぞれの出身小学校の生徒・児童が自主的に集って、清掃活動を行った。生徒会のメンバーが、リーダーシップを取ってメンバー決めやコース設定をして、地域清掃を行う社会奉仕活動である。

**取組の課題・創意工夫** 『同一日三小学校同時開催』

昨年までは3つの小学校の開催を別日で実施してきたが、本年度は各小学校出身の生徒会メンバーがそれぞれ自覚を持って、この活動を主体的に運営した。また、生徒・児童みんなが心をついて同じ地域をきれいにするために、同一日同時開催で実施とした。生徒会メンバーの人数が限られているため、運営が自分たちだけでできるか心配されたが、少人数でもお互いに協力し合って運営を行い、地域社会への奉仕活動をアピールすることができた。

取組の成果（効果） 『集団づくりのきっかけ』

同じ出身小学校の生徒たちが地域を清掃することで、集団づくりのきっかけができたことが大きな成果だった。3年生は、主体的に2年生や1年生の動きを常に見て、指示を出したり行動したりと、学校の最上級生として自覚を深めて、責任を果たすべく行動するようになった。さらに、この上級生が下級生にモデルとして手本を示す動きが広がって、2大行事である体育祭や文化祭においても運営をスムーズに進める原動力になった。

今後の展開 『3小学校との合同挨拶運動』

3小学校のうち吉田小学校とはともに、生徒指導集中対策指定校であることから、この清掃活動に加えて、児童会・生徒会主体の挨拶運動をこれまでに実施してきた。この取組は、中学校だけの活動ではなくて、小学校との小中連携の活動の大きな柱の1つとなっている。今後は、可愛小学校や郷野小学校にも活動を広げて挨拶運動を年間で複数回実施していく予定である。

他校へのアドバイス 『ピア・サポート効果』

生徒は、清掃や挨拶という同じ目的の活動を年下の児童と一緒にすることで、年上としての自覚に目覚める。これらの取組は、児童・生徒同士の相談相手や相談相手まではいかなくても支えたり、励ましたりする仲間（ピア・サポーター）を児童・生徒の中で作る効果がある。

取組事例名	『生徒指導オリエンテーション』
取組のねらい 『 ルールの意識統一 』	
吉田中学校では、毎年年度はじめに学校行事として生徒指導オリエンテーションを行っている。これは4月に全生徒がそろった日の1時間目に学校生活で最低限必要なルールの確認を生徒と職員でとに行い、意識統一をして清らかな気持ちでスタートすることを目的としている。	
取組の具体的内容 『 学校生活のルールの徹底 』	
生徒指導主事をはじめとする生徒指導部の職員が、生徒指導方針に沿って、生徒指導規程を生徒と職員全員に配布して、学校生活で最低限必要なルールの確認をする。	
取組の課題・創意工夫 『 ポイントの絞り込み 』	
学校生活で最低限必要なルールと一言で言っても、かなりの内容の話をしなければならないので、各担当者が持ち時間内で重要なポイントに絞り込んで話をする。 さらに、基本的な集団行動のパターン、日常生活のルールや学習規律など、それぞれの担当者が視覚教材を活用したり、パフォーマンスを交えて、工夫を凝らして説明を行っていく。	
取組の成果（効果） 『 緊張感のあるスタート 』	
全校集会において生徒指導オリエンテーションは行うので、1年生は2，3年生の緊張感のある姿から引き締まったスタートが切れる。上級生の2，3年生も、以前に同じ話を聞いていても、毎年この時間に学校のルールを再認識することで、緊張感を持って一年のはじめを迎える。	
今後の展開 『 生徒の主体的な力 』	
これまで生徒指導オリエンテーションにおいては、職員の話による取組が大きな割合を占めていた現状がある。これからは、生徒会執行部の生徒を正しい服装のモデルとしたDVDを作成して活用したり、あるいは生徒会執行部のメンバーによるアピール活動を取り入れるなど、生徒に主体的に取り組ませる内容を仕組んでいく。	
他校へのアドバイス 『 轍は熱い内に打て！ 』	
本校の特徴として、一番良いタイミングで生徒に指導を入れることがある。生徒指導オリエンテーションもその指導の1つである。4月にスタートを切って2日目の1時間目は、まさに生徒に指導を入れる最高のタイミングである。	